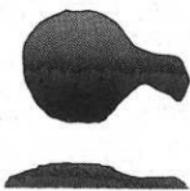


雲仙市文化財調査報告書 第7集

moriyamaotsuka
守山大塚古墳

—市道吾妻平木場線改良工事に伴う発掘調査報告—



2010

長崎県雲仙市教育委員会



守山大塚古墳と丸塚古墳

雲仙市文化財調査報告書 第7集

moriyamaotsuka
守山大塚古墳

—市道吾妻平木場線改良工事に伴う発掘調査報告—

2010

長崎県雲仙市教育委員会

発行にあたって

このたび平成21年度に実施しました、市道吾妻平木場線改良工事に伴う守山大塚古墳発掘調査の報告書を発行することになりました。当市は平成17年10月11日（10月11日）に7町（国見町・瑞穂町・吾妻町・愛野町・千々石町・小浜町・南串山町）が合併して誕生し、「豊かな大地・輝く海とふれあう人々で築くたくましい郷土」の実現を目指しています。

守山大塚古墳は、島原半島の北側、雲仙市吾妻町守山条里跡の中に位置します。条里跡の両脇には、雲仙山麓より続く舌状丘陵が延び、古墳のすぐそばを田内川が流れます。普賢岳側から有明海に向かって緩やかに傾斜する平坦な扇状地の中に、比高差7mを測る守山大塚古墳の墳丘がそびえます。墳丘の上からの眺望は、南側には雲仙普賢岳がそびえ、北側眼下には有明海が広がり、佐賀県・福岡県・熊本県までも一望することができます。

守山大塚古墳は島原市の郷土史家、故宮崎康平氏が発見した前方後円墳です。現在は墳丘全面が墓地となっており、墓石が立ち並ぶ姿はおおよそ古墳とは思えません。宮崎康平氏の著書「まほろしの邪馬台国」の中でも紹介された古墳として当時から注目されていました。これまで調査歴はほとんどなく、近隣で散見される遺物や墳丘の形態から、「初期の前方後円墳であろう」と推測されておりました。大きさも全長が70mと県内でも最大級のもので、弥生時代から古墳時代へ移り変わる有明海沿岸地域の歴史を語る上で、鍵となる古墳としても認識されていました。今回の調査の結果、墳丘にはしっかりととした葺石が施されており、墳丘の規模も一回り大きくなることが判明しました。崩落した葺石の下からは、墳丘に供えられていたであろう壺や甕の土器片が出土し、4世紀前半にはすでに古墳が存在することも分かりました。また、周囲の周溝は幅10mを超えるものと予想され、築造当時の姿を垣間見ることができ、当時の人々の古墳に対する思いが伝わるようです。

雲仙市では地域発展を目指して、各種の公共事業を行い、これまで残されてきた地域の原風景が大きく変貌しようとしております。このような情勢の中で、祖先の貴重な文化遺産を保護し、これを後世に伝えることは、私たちに課せられた重要な責務であります。本市では、このような事態に対処するため、遺跡発掘調査を行い保存・保護に努めて参りました。そして調査の成果を公開する一つの手立てとして報告書を作成いたしましたが、遺跡の宝庫といわれる本市にとりましては、貴重な歴史と文化を理解するうえで大きな役割を果たすものと期待しております。

最後になりましたが、今回の調査に当たり、地元地権者の皆様、工事関係者の皆様、大学・博物館関係の諸先生方ならびに長崎県教育委員会学芸文化課の皆様のご指導に衷心から感謝申し上げ、発行のことばといたします。

平成22年2月28日

雲仙市教育委員会
教育長 塩田貞祐

例　　言

1. 本報告は平成20年度及び平成21年度に実施した市道吾妻平木場線改良工事事業に伴う長崎県雲仙市吾妻町に所在する守山大塚古墳の発掘調査の報告である。

2. 調査は雲仙市教育委員会が担当し、下記の期間実施した。

2008年10月20日～11月17日

守山条里跡試掘調査

2009年5月19日～6月23日

守山大塚古墳発掘調査

3. 調査体制は次のとおりである。

雲仙市教育委員会（平成20年度）

教育長 鈴山 勝利（～12/1）

教育長 塩田 貞祐（3/1～）

教育次長 塩田 貞祐（～2/28）

生涯学習課長 川鍋 嘉則

課長補佐 金子 悅治

文化財班班長 田中 卓郎

文化財班係長 江崎 亮太

主査 辻田 直人

主任 德永 真幸

文化財調査員 山下 美郷・小野 綾夏・

大野 瑞恵

文化財整理員 早稲田一美・柳原亜矢子・

林田 崇

調査担当 辻田・小野

現体制（平成21年度）

教育長 塩田 貞祐

教育次長 山野 義一

生涯学習課長 川鍋 嘉則

課長補佐 金子 悅治

文化財班班長 田中 卓郎

文化財班参事補 江崎 亮太

係長 辻田 直人

主任 德永 真幸

文化財調査員 小野 綾夏・大野 瑞恵・

村子 晴奈

文化財整理員 早稲田一美・柳原亜矢子・

小笠 智枝

調査担当 辻田・小野

4. 遺物の接合は柳原、遺物の実測は小野が、トレイスは早稲田が行った。また、図版の編集・作成は辻田・小野・早稲田が行い、写真は現地調査を辻田・小野が撮影した。掲載遺物写真は小野・柳原が行い、写真編集は小野が行った。

5. 現地での遺構の実測及び、墳丘断面図の作成は株式会社埋蔵文化財サポートシステム長崎支店に委託した。

6. 空中写真撮影業務は株式会社九州文化財研究所に委託した。

7. 本遺跡の遺物及び写真・図面等は雲仙市国見神代小路歴史文化公園・歴史民俗資料館で保管している。

8. 本書で用いた方位はすべて真北であり、国上座標は世界測地系による。

9. 現地調査および本書の刊行にあたり多くの方々からご助言いただいた、記して謝意を表します。小川富士雄（福岡大学）、柳沢一男（宮崎大学）、蒲原宏行（佐賀県）、久住猛雄（福岡市教育委員会）、重藤輝行（佐賀大学）、本田秀樹（長崎県立北高等学校）、竹中哲朗（諫早市教育委員会）、西村修、長崎県学芸文化課、九州前方後円墳研究会、長崎県考古学会、市立鶴田小学校、有限会社 中村工業、（株）馬場鉄鋼、雲仙市道路河川課（順不同）

10. 本書の執筆・編集は辻田・小野による。

目 次

巻頭図版（中表紙）

発行にあたって

例言

本文目次

挿図目次

表目次

図版目次

第1章 調査の経緯（小野） 1 p

 第1節 発掘調査にいたる経緯 第2節 発掘調査の方法及び経過

 第3節 遺跡の地理的・地形的環境 第4節 歴史的環境

 第5節 調査歴

第2章 基本土層（辻田） 4 p

 第1節 各調査地点の対比

第3章 古墳の調査（辻田・小野） 6 p

 第1節 平成20年度試掘調査（小野） 第2節 平成21年度本調査（小野）

 第3節 検出遺構の配置（辻田） 第4節 墳丘形状（辻田）

 第5節 遺物について（小野）

第4章 まとめ（小野） 16 p

 第1節 概要

 第2節 まとめ

挿 図 目 次

第1図 遺跡位置図 (1/20,000)	
第2図 調査区配置図 (1/1,000)	1
第3図 調査区土層図 (1/125) (配置図 1/1,000)	5
第4図 検出遺構配置図 (1/100)	9
第5図 遺物出土地点の分布 (1/1,000)	11
第6図 墳丘断面図 (1/1,000)	13
第7図 出土遺物他 (1/3)	15

表 目 次

第1表 守山大塚古墳出土土器観察表.....	19
------------------------	----

図版目次

中表紙図版（カラー） 守山大塚古墳と丸塚古墳

本文中図版（モノクロ）

- | | |
|-------------------------------------|-----------------------------|
| 6頁 TP-1 葦石検出状況（南側より） | TP-2 完掘状況（南側より） |
| 7頁 1区葦石検出状況（北側より） | 1区遺物検出状況（南側より）（15頁第7図1・2・3） |
| 2区疊集中地点検出状況（南側より） | 2区完掘状況（南側より） |
| 8頁 1区・試掘坑1葦石検出状況（南側より） | 試掘坑1葦石検出状況（北側より） |
| 試掘坑2葦石検出状況（南側より） | 試掘坑2遺物（二重口縁壺）検出状況（西側より） |
| 11頁 半成20年度 説明会風景 | 半成21年度 説明会風景① |
| 平成21年度 説明会風景② | 守山大塚古墳後円部と秋の空 |
| 13頁 1983 吾妻町教育委員会編「吾妻町史」巻頭カラー写真より転用 | |

図版1（モノクロ）

遺跡上空写真（昭和38年国土地理院）

図版2（モノクロ）

古墳上空写真

上段 第二次大戦直後米軍撮影写真

下段 昭和38年国土地理院

図版6（カラー）

古墳近景（右側が前方部）

TP-1 墨書き土器検出状況（15頁第7図8）

1区葦石検出作業風景

1区遺物検出作業風景（9頁第4図1・2・3）

1区葦石除去後の状況（北側より）

1区取上げた葦石

2区疊集中地点検出状況（南側より）（9頁第4図）

2区高坏検出状況（北側より）（15頁第7図5）

図版3（カラー）

古墳上空から雲仙普賢岳を望む（平成21年6月

19日）

図版7（カラー）

試掘坑1北壁土層（9頁第4図）

試掘坑1石列北側土層（9頁第4図）

試掘坑1石列南側土層（9頁第4図a-a'）

試掘坑1取上げた葦石

試掘坑2表込め検出状況（北側より）（9頁第4図）

試掘坑2葦石検出状況（南側より）（9頁第4図）

試掘坑2二重口縁壺出土状況（15頁第7図7）

墳丘基礎部分の位置

図版4（カラー）

古墳上空写真

上段 調査区配置状況

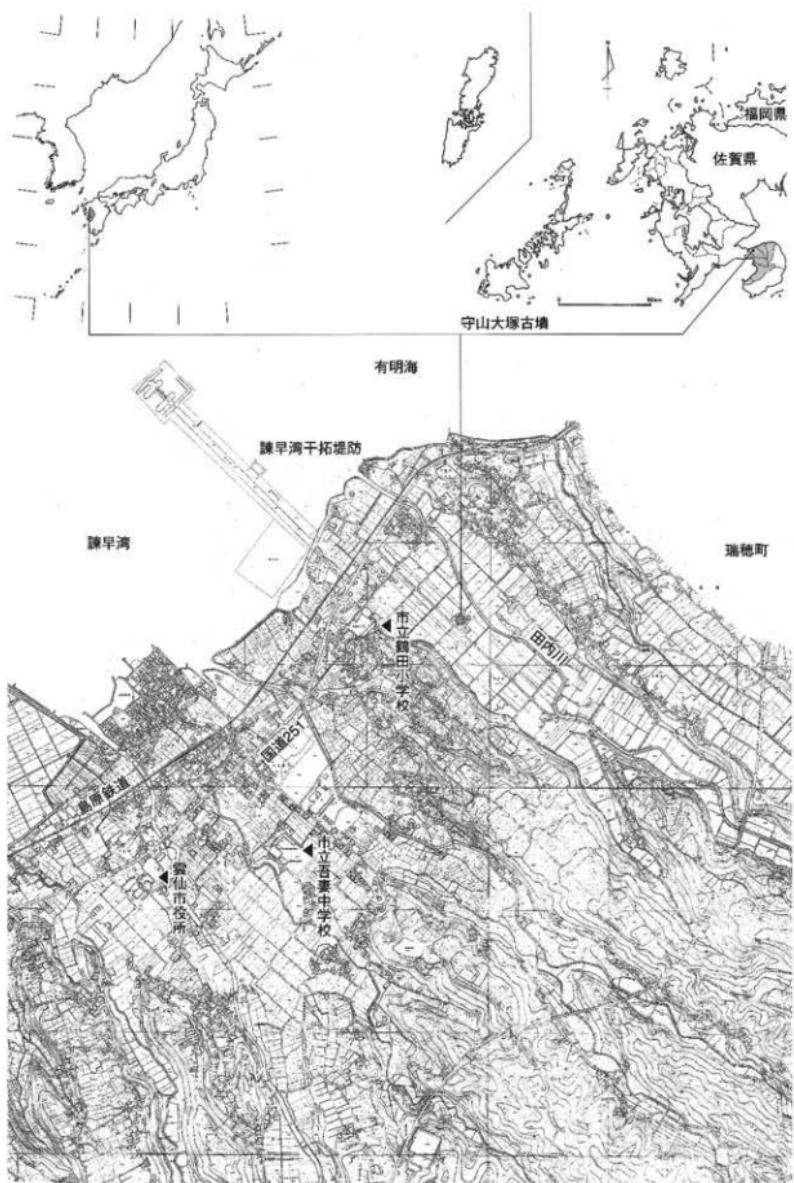
下段 葦石検出状況

図版5（カラー）

古墳上空写真（奥は田内川）

図版8（カラー）

出土遺物他



第1図 遺跡位置図 (1/20,000)